

D.D.V 運動の推進について

神岡営林署 山内 貞治
中矢 秀次郎
坪内 一治

1. D D V運動の取り組みと動機

当署における過去10か年の公務災害60件を原因別にみると、行動災害54件（90％）、施設災害6件（10％）となっている。また52年度中の「ハッとした通報」289件についても、行動不良264件（85％）、その他43件（15％）で、その数値が示すとおり、作業方法、動作不良に起因するものが圧倒的に多いことがわかる。このことは「行動災害」を撲滅すれば90％以上の災害がなくなる。そこで、なぜ行動災害が多いのかを分析してみると、

- (1) 決めたことが守られていない。
- (2) 安全対策は皆んなで決めたものと言うより、押しつけられたものという認識が大きい。……………
…という反省から、
- (3) 自らが安全対策を考え、自ら実践する。
- (4) 常に自分の弱点はどこかをよく考え、その弱点を補強していく。……………との結論に達した。

この論議をふまえ、安全衛生活動をより確実に実践する一手段として、今年度から「D D V運動」が取り入れられることになった。

2. D D V運動とは何か。（表-1参照）

(1) 主 旨

「安全衛生に関しての個人個人の弱点（Defect）を自ら発見（Discover）し、これを内外に公表し、自他共にこれを克服（Victory）する運動」を展開することにより、自主的活動の強化、実態に合った対策の確立、全員参加の安全衛生活動の推進を図るものである。（3つの頭文字をとりD D V運動と名付けた）

(2) 実 施 方 法

ア 個人個人が克服すべき目標を一つかかけ「推進カード」（表-2）に記入する。

イ 目標の決定にあたっては、

- (ア) 運動の主旨を十分に理解し、作業や日常生活における、自分の弱点や問題点をよく考える。
- (イ) 目標の中から達成しようとする目標を一つ決める。
- (ウ) 目標は抽象的なものでなく、「1日のタバコは20本にする」など具体的なものとするが、公

開したくないもの（プライバシー）は掲げる必要はない。一旦掲げた目標はあくまで実践し、達成することを前提に決める。

(㊦) 目標を達成するためには、手段と活動を持続するための手立てをよく考える。

ウ 各課長、主任は全員の推進カードを取りまとめ署長に報告する。

エ 目標については実施計画の個人別一覧表（表－２）に記入し、TBM、安全懇談会などの機会を通じて班全員に公表し、意見交換を行うなど活用を図る。

オ どんな目標があったか。

署全員の目標（表－３参照）

私の担当区全員の目標と実施方法（表－４参照）

3. 運動の取り組み状況

(1) 私の担当区の場合、先に述べたDDV運動の実施方法に基づき全員が推進カードに目標を記入し主任に提出した。この時点で仲間に目標を公表し、一覧表を宿舍や、休憩所に掲示して忘れないよう努めると共に、安全懇談会や作業中、雑談の中で容易に話し合い素直に注意し合えるよう配慮し推進されてきた。

(2) 実践状況の実例

ア 目標「酒の量を減らす」。

酒の席で本人に「お前は酒がいけるから」と言ってどんどん注ぎ、本人も根っからの酒好きのため注がれるまま、良い気持で飲んでしまった。注いだ仲間は本人の目標を知っていておもしろ半分に注いだ。

イ 目標「チームワークを大切にする」

徒歩で2時間もかかる山に山泊した時のこと。山奥でもありDDVを守って20時以降は酒を慎しもうと皆で約束していたが、20時過ぎになり、翌日の作業に差支えるので床に入って休んでみると、本人が数回にわたり起しにきて、あげくの果て「お前は付き合いの悪いやつだ」と言ってまだ騒いでいた。

ウ 目標「シートベルトを着用する」

乗車したら、すぐにシートベルトに手をやり着用している。また運転席前にステッカーを貼って着用しているが忘れた時など同乗車に注意してもらい、90%以上実行している。

(3) 他の事業所の場合

ア 現場への通勤や、出張時など、速度とシートベルトが守られたかを、毎日点検するようチェック用紙を作り下車する際記入している。

DDV運動、目標達成のためのチェック表

4月分

走 行 メ モ 目 標							備考
日	天 候	走行キロ	当日キロ数	燃 料	速 度	シートベルト	
1	くもり	18,256	45		○	○	
2	晴	18,306	50	20ℓ	×	○	
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	

イ 子供の体力づくりも目標だったので「自ら決めたものは守る」という、子供に対しての教育上からも早朝マラソンを子供と一緒に実行している。

e t c.

4. 結果はどうだったか。

署全体のDDV運動結果を(表-5参照)集約すると、昭和54年4月からスタートして9か月余り経過したが、「目標を決め、公表し、目標に向かって努力した結果、迂曲はあったが以前より前進した、今後も続けるべきだ。」との意見が90%以上も占めている。これは目標を公開することにより、自覚を高めると同時に自分との戦いであり、この運動を継続することにより、健康維持、体力向上、安全確保の面に、より役立つたのではないか。

また私の班では、この運動を通じて、お互いにどんなことでも話し合える、明るい職場になったと判断している。

この反面「決めても同じだ、押付けになる、煩わしい」などの意見も10%弱あり、これらの人に対して、運動の主旨を十分理解させ、あたたかく見守りながら、どれだけでも参加しやすいようにしてやる必要があると考える。

5. ま と め

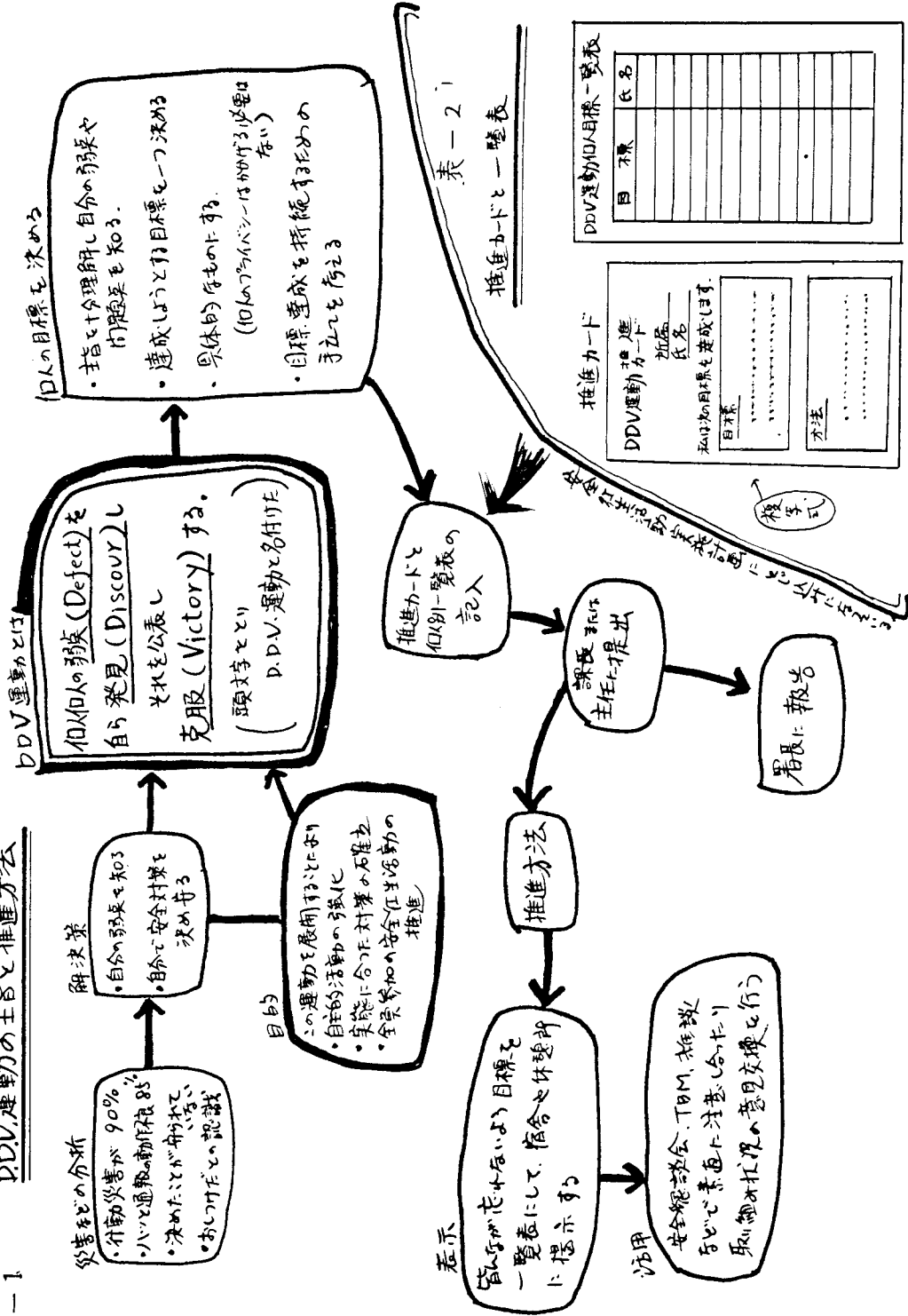
この運動を着実に実行するためには、

- (1) ひとり、ひとりが目標に向かって努力すること。
- (2) 仲間の目標を知り、素直な気持で注意し協力してやること。
- (3) チームワークを大切にすること。

が充たされなければならない。

スタート1年目で不十分な点や問題点もあるが「DDV運動」を通じて、自主的活動の強化、実態に合った対策の確立、全員参加の安全衛生活動の推進が図られ“行動災害をなくす”という目的が達成できるのではないかと考える。

表一1 DDV運動の主旨と推進方法



署全員の目標集約

(注) ○内数字は件数

表一-3

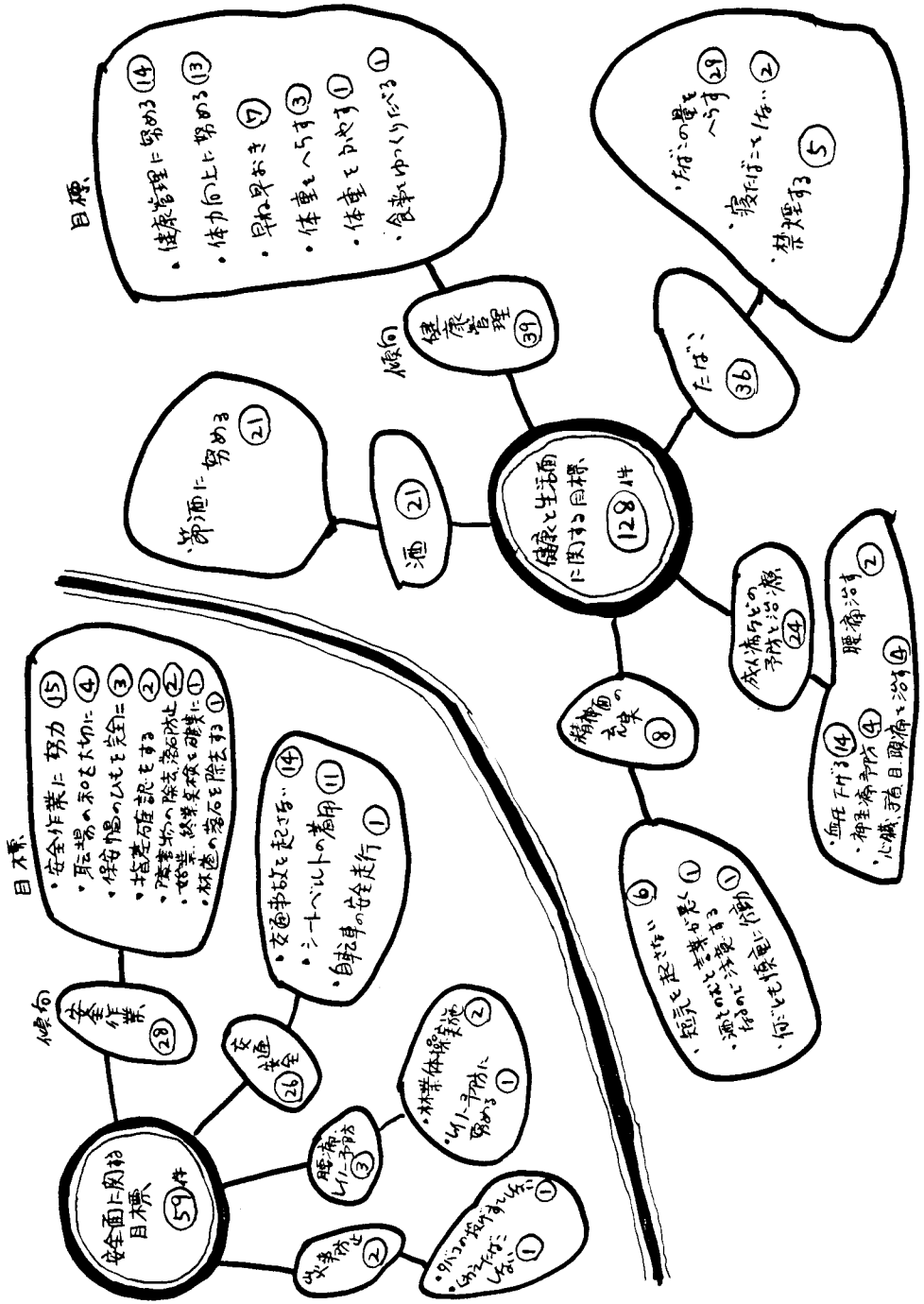
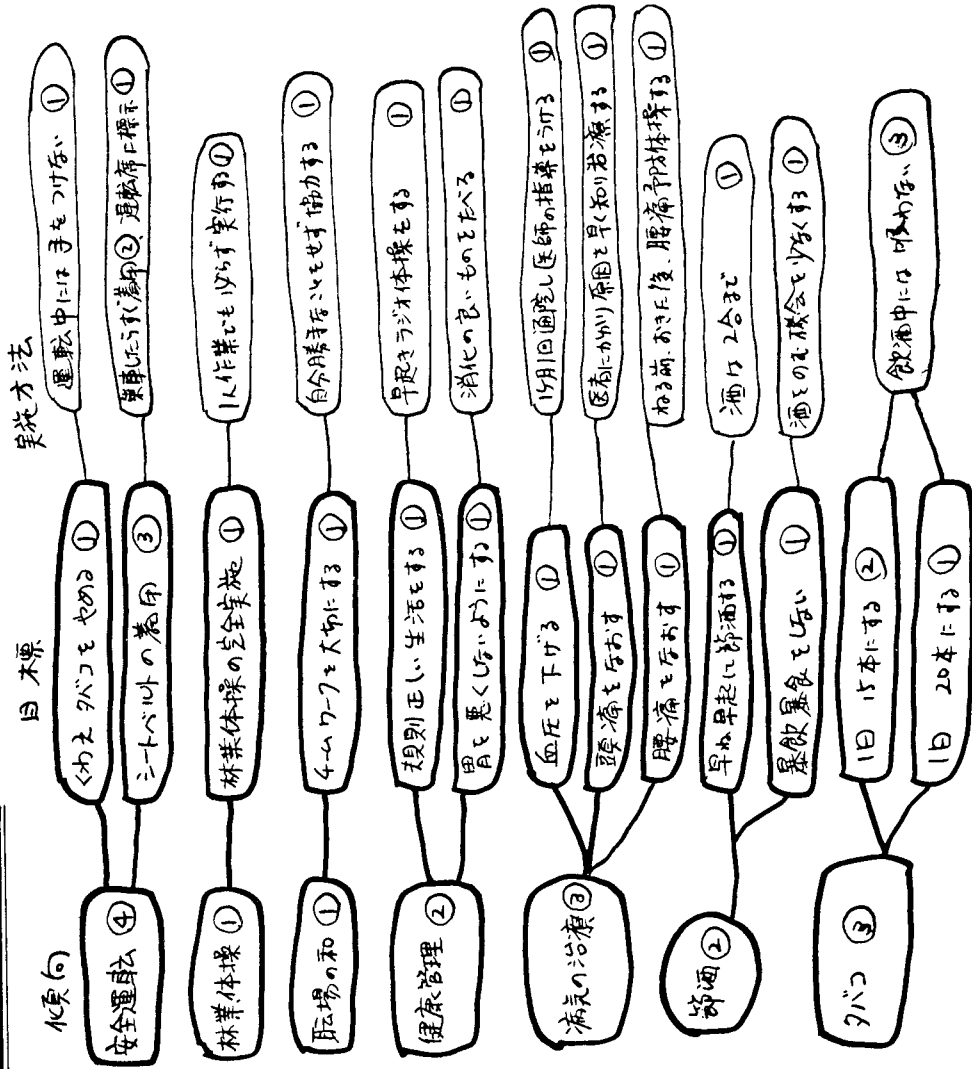
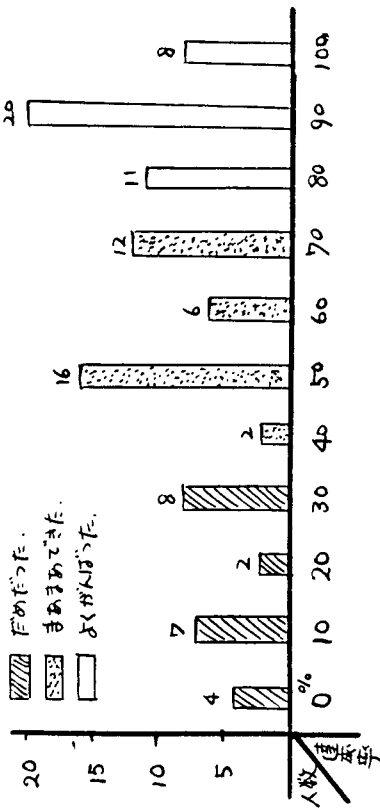


表-4 私の担当正全員の目標と実施方法



表一5 D.D.V.運動結果の集約(層全体)

① どれくらい目標を達成したか

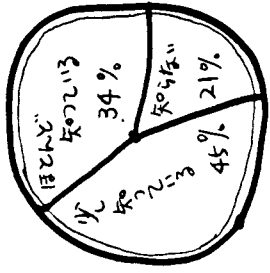


② 守れなかった理由

1. 意志が弱い.....43%
2. 目標を忘れる.....23
3. 目標が高すぎた.....10
4. 守る意志があつたつぎ合ひがあつた.....10
5. 目標に達当に決めたつぎ合ひがあつた.....4
6. その他.....10

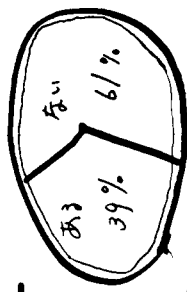
③ 班、セツト、課などの

関係の目標を知っているか



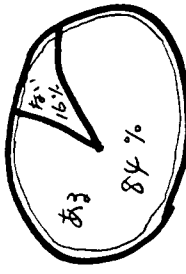
④ D.D.V.について関係に

注意したことがあるか



⑤ 安全懇談会や課外会議

などで話し合つたことがあるか



⑥ この運動について

